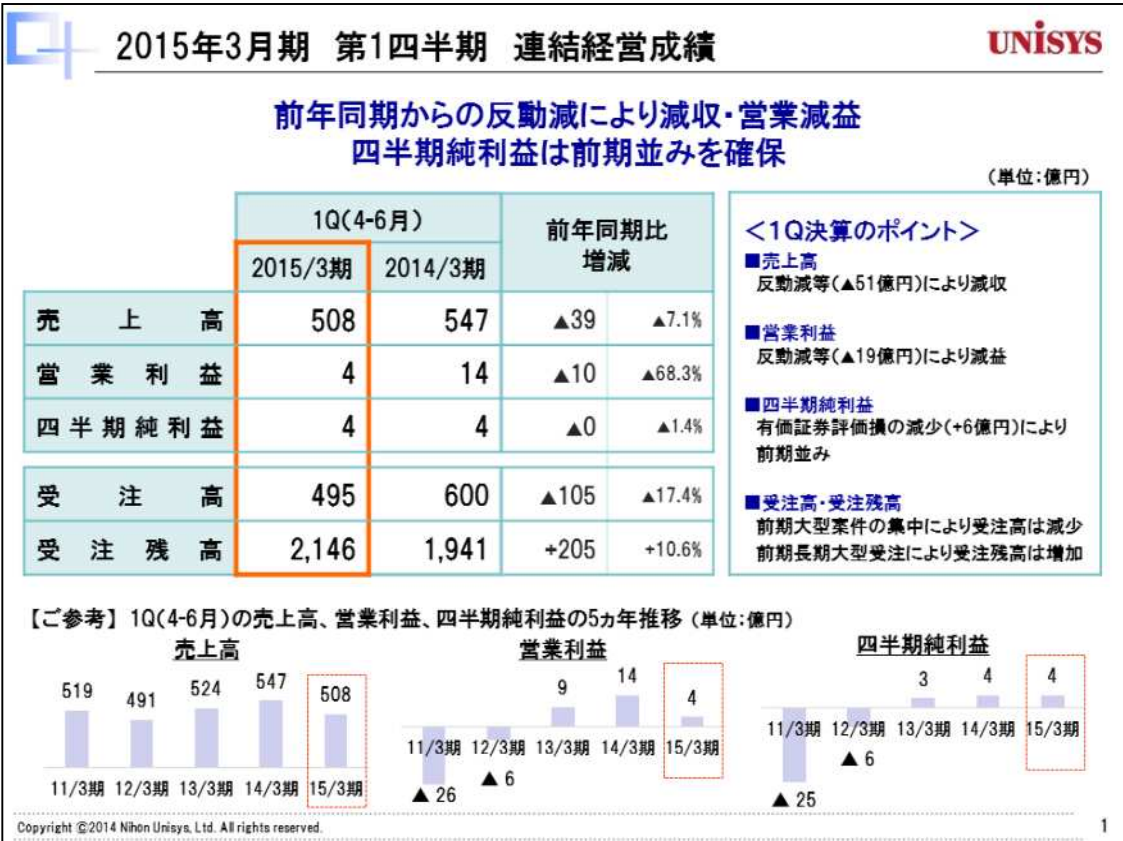


 2015年3月期 第1四半期 決算の概要

2014年7月31日
日本ユニシス株式会社



向井でございます。よろしくお願いいたします。

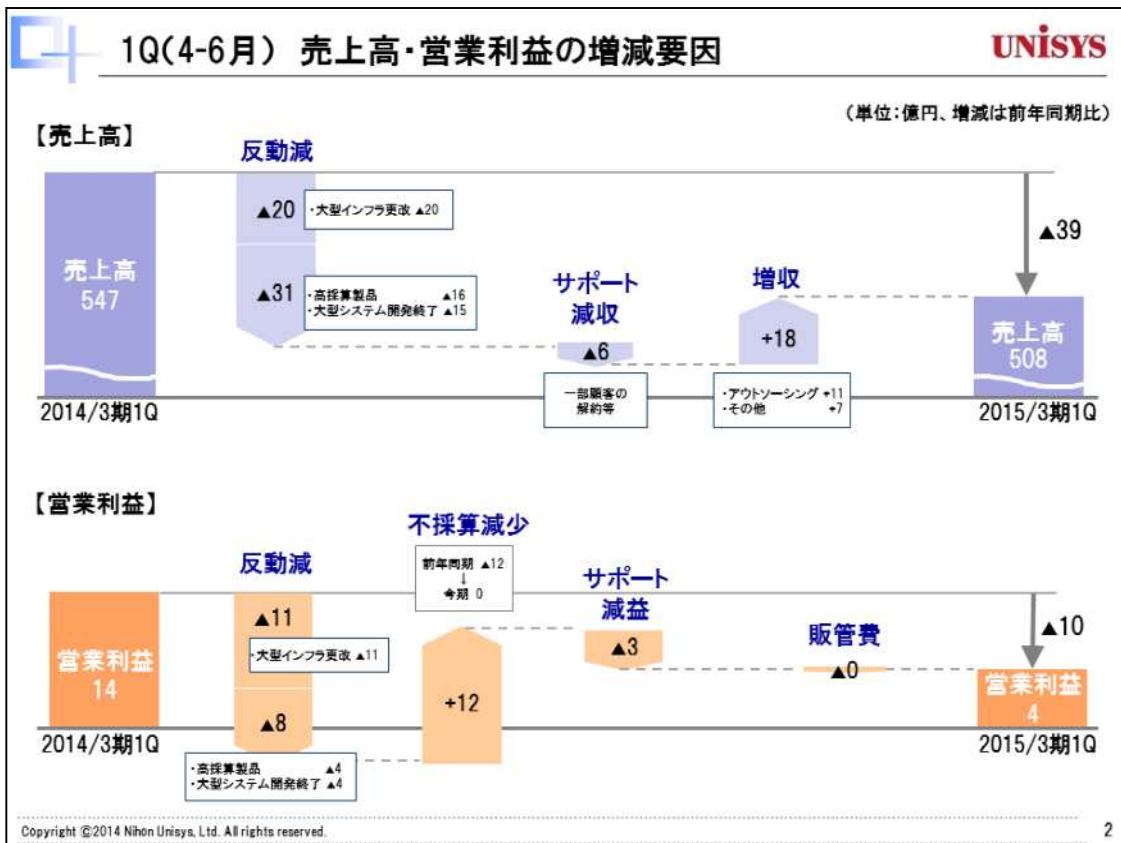
これより、2015年3月期 第1四半期の決算概要について、ご説明申し上げます。
「決算の概要」と題しました資料の1ページ目をご覧ください。

当四半期は、前年同期に大型案件が集中した反動減から減収減益となりましたが、純利益は、投資有価証券評価損の減少により、ほぼ前期並みの着地となっております。売上高は前年同期比▲39億円減少の508億円、営業利益は同▲10億円減益の4億円、純利益は前年同期並みの4億円となりました。

受注高も、前期に大型案件が集中したことから、前年同期比▲105億円減少の495億円となりましたが、金融関係を中心に提案活動は活況を呈しており、新規受注獲得に向けて順調に推移しております。

受注残高につきましては、前期に長期大型案件を計上したことから、+205億円増加の2,146億円となっております。

なお、下段の5カ年推移で見ますと、前々期、前期の第1四半期は大型案件が集中したことから、売上高、利益ともかなりの高水準となっております。反動減の影響は期初から見込んでおりましたので、上期および通期に向けて、ほぼ想定通りの立ち上がりとなっている次第でございます。



続きまして、資料の2ページをご覧ください。
売上高および営業利益の、前年同期比での増減要因を説明いたします。

売上高は、前期に大型案件が集中した影響が▲51億円ございましたが、引き続きアウトソーシングが増加し、▲39億円の減収にとどまりました。

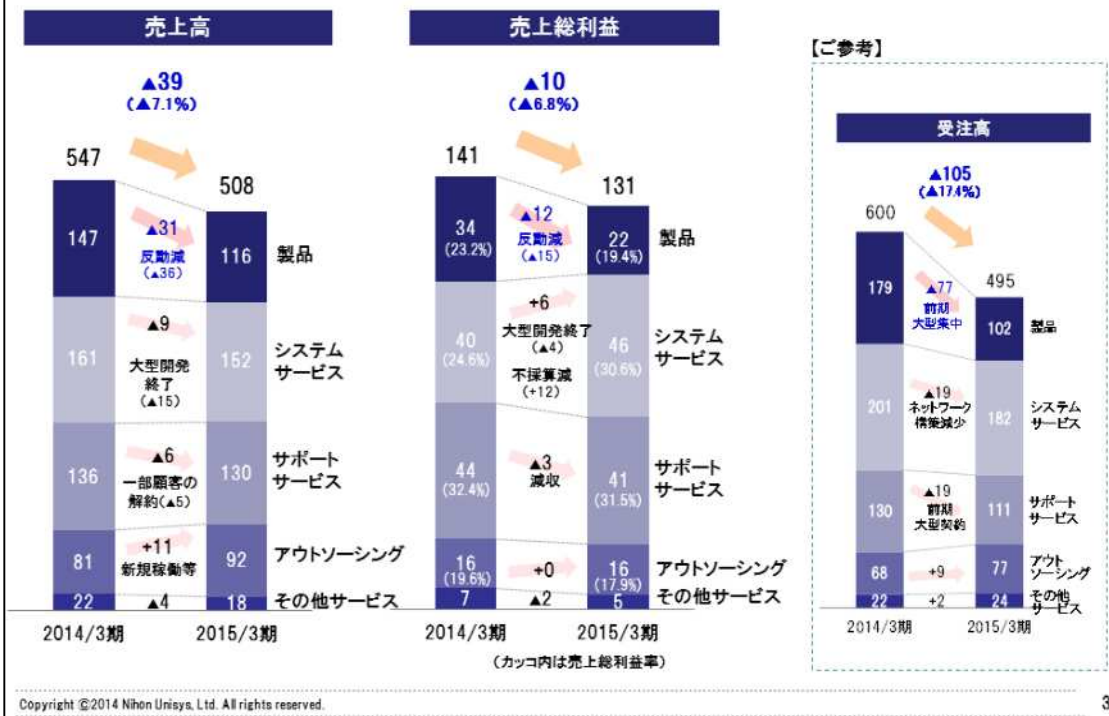
営業利益は、反動減が▲19億円ありましたが、不採算が12億円減少したことから、▲10億円の減益にとどまっております。

なお不採算に関しましては、当四半期では、新たな不採算案件は発生しておりません。前期の不採算案件につきましても、見込まれる損失は前期までに全て引き当てており、開発はほぼ計画通りに進捗しております。

1Q(4-6月) セグメント別の状況

UNISYS

(単位:億円)



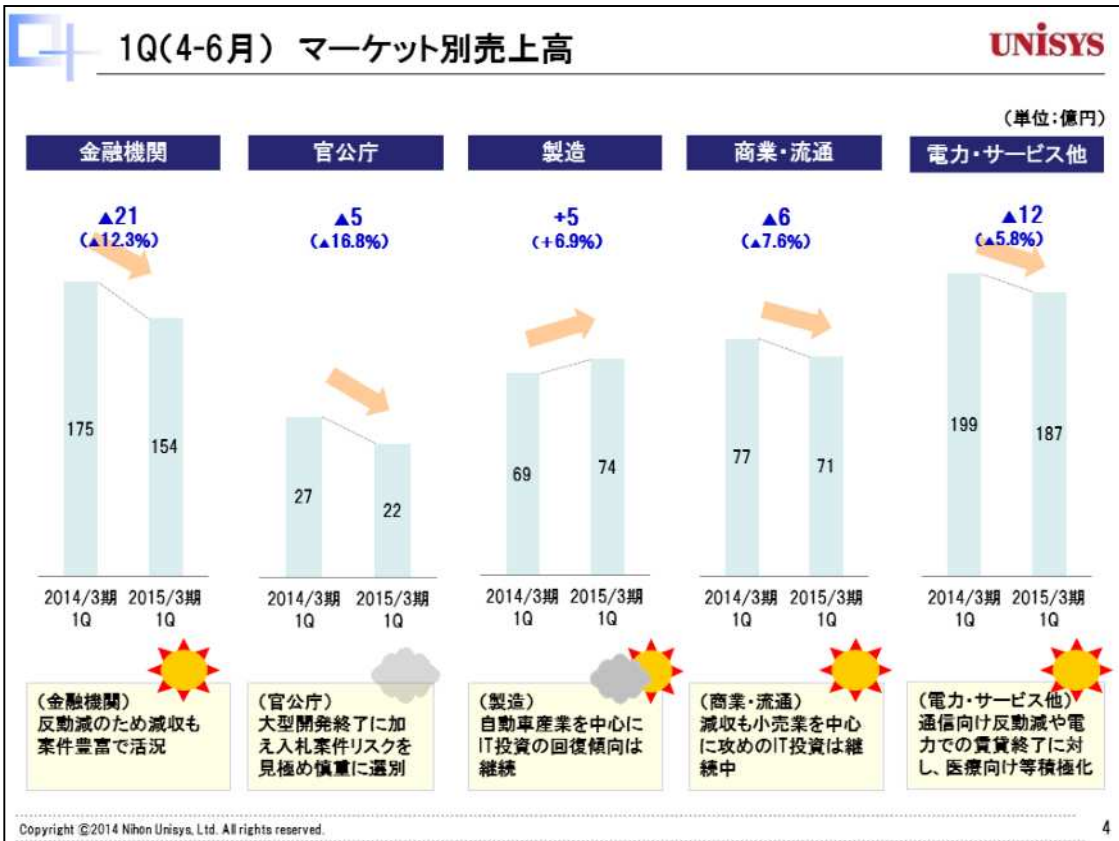
続きまして、セグメント別の状況について説明いたします。
資料の3ページをご覧ください。

製品販売では反動減の影響が大きく、減収減益となりましたが、この影響を除くと、増収増益であり、マージンも改善しております。

また、システムサービスは前期大型開発が終了した影響から減収となりましたが、不採算が減少したことから、増益となっております。

サポートサービスは、一部顧客における解約等から減収減益となりました。

アウトソーシングは、地銀Bank Visionで1月からスルガ銀行が稼働したことなどにより、増収となりましたが、高採算案件の終了などもあり、売上総利益は前年同期並みとなっております。



続きまして、マーケット別の状況を説明いたします。
資料の4ページをご覧ください。

金融や電力・サービスを中心として、前期に大型案件が集中した影響が出ておりますが、
実態としては良好な環境が続いております。

特に、金融は反動減の影響が大きくでておりますが、この影響を除くと+7%の増収と
なっております。

一方、官公庁は、入札案件に対してリスクを慎重に見極めていることから、減収傾向が
続いております。

上期・通期の売上高、営業利益、当期純利益の予想は
 期初公表値(5月9日)から変更なし

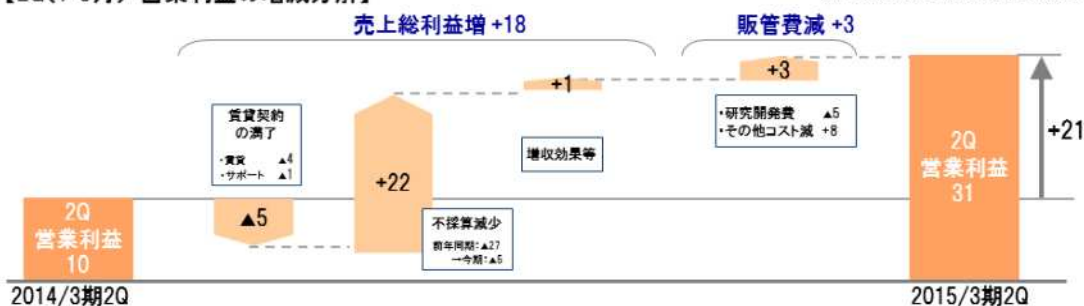
(単位:億円)

	2015年3月期 1Q実績		2015年3月期 2Q予想		2015年3月期 上期予想	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前期比
売上高	508	▲39	792	+57	1,300	+19
営業利益	4	▲10	31	+21	35	+11
当期純利益	4	▲0	14	+2	18	+2

* 上期予想の内訳は補足資料をご覧ください。(一部、見直し)

【2Q(7-9月) 営業利益の増減分解】

(単位:億円、増減は前年同期比)

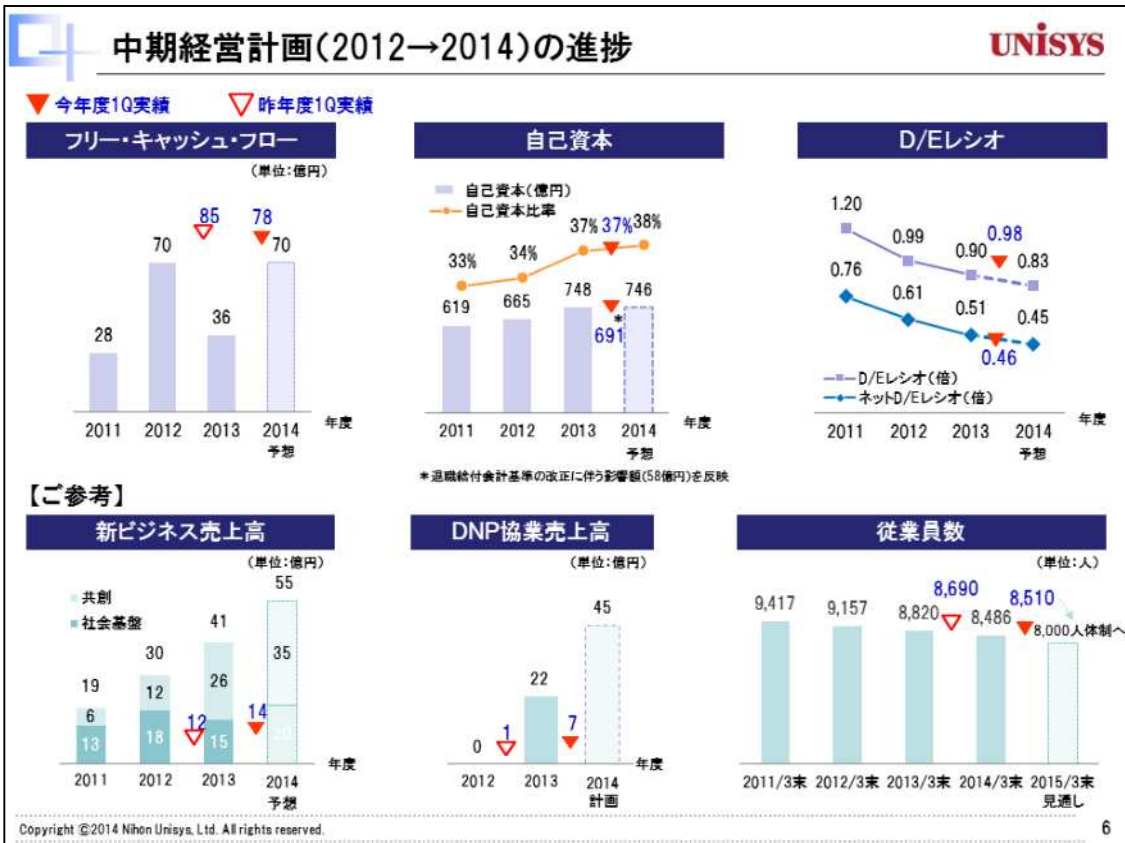


業績予想についてご説明いたしますので、資料の5ページをご覧ください。

上期および通期の、売上高、営業利益、当期純利益につきましては、5月9日の公表値から、変更はございません。

第2四半期の営業利益増減要因といたしましては、貸倒契約満了の影響がありますものの、不採算の大幅な減少を見込んでいることなどから、前年同期比で+21億円の増益を予想しております。

上期見通しの内訳につきましては、短信の補足資料をご参照願いたいと存じます。



最後に、中期経営計画(2012→2014)の進捗について説明いたします。
資料6ページをご覧ください。

財務面では、当四半期でのフリー・キャッシュ・フローは78億円のポジティブ、自己資本比率は37%、ネットD/Eレシオは0.46倍と、財務体質の強化に向け、順調に進捗しております。

以上をもちまして、2015年3月期第1四半期 決算概要の説明を終了いたします。

U&U

Users & Unisys

UNISYS

(注意)

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。